



海の祭ismプロジェクト2020報告

海の祭開拓・取材





開拓・取材班の活動について

なぜやるのか？

「海の祭り」に実際に行って取材して考える、記事で魅力を発信する！

「海の祭り」との関係性をつくり、コラボレーションにつなげる

なにをやったのか？

「海の祭り」の取材記事・2019年度8本、2020年度8本

取材から、体験プログラムに発展（新潟の琴浦精霊船、石川のとも旗祭り）

どうなったのか？何につながるのか？

海の祭りは、地域の歴史・地理・暮らしが詰め込まれた<地域の記憶の再生装置>

コロナ禍による規模縮小により危機に陥るも、各地で危機感の共有と様々な工夫が始まる

2020年の海の祭りの開拓・取材

開拓・取材班



- ・コロナ禍で全国各地の**祭りが中止**に！
- ・祭りの取材・新規開拓は難しいと判断
- ・コロナ禍で、できることはないか探す

→**海の祭広報講座オンライン**を企画

→**8本のコロナ禍の海の祭**記事

取材記事は

海の祭ismプロジェクト

Webサイトに掲載→



- ・海の祭広報講座オンライン
- ・郷ノ浦祇園山笠（長崎県壱岐市）
- ・佐島の秋祭り（愛媛県上島町）
- ・とも旗祭り（石川県能登町）
- ・宇久島竜神祭（長崎県佐世保市）
- ・釜石まつり（岩手県釜石市）
- ・熱海こがし祭り（静岡県熱海市）
- ・三谷祭（愛知県蒲郡市）
- ・姥神大神宮例大祭（北海道江差町）

海の祭広報講座オンライン2020開催レポート～自分たちの祭りは自分たちで発信する～

オンライン 開催日：2020年9月～10月



自分たちの祭りは自分たちで発信する

祭り広報講座

マツリズム・スクール
オンライン2020

担い手向け講座



研究者・ライター
西嶋一泰



JAZYブランディング
アートディレクター



編集者・ライター
大石始

全3回 オンライン開催
担い手
支援の
ため **無料**

初回：2020年 **9月6日** (日) 19時～21時

対象：海の祭りの担い手で自分たちで情報発信をしたい方

特典：講座でつくるあなたの祭りのパンフ1000枚を贈呈&Web掲載



広報講座のねらい

祭りの広報講座とは

これまで

予算ある時だけパンフやWebサイトつくる

これから



予算に関係なく自分たちで発信する

しかも、自分たちが「見て欲しい姿」を
正しく伝えられたら最高！



祭りの広報講座とは？

開拓・取材班



- ・ コロナ禍で新たな祭りの開拓が困難となるも、**新たな価値を生む方法**を探す
- ・ マツリズムが祭りを取材していたが、祭りの担い手が**自ら記事を書く**ことを支援
- ・ 各地の祭りはWebサイトやSNSが活用されていることも多いが更新されていない
- ・ **祭りの担い手が広報力をつけると課題解決に結びつくはず！**
 - 災害などの危機にCFや支援を募る、地域内広報を行って担い手不足を解消
- ・ 第三者が取材するものではない、**担い手目線の祭りの魅力が表に出てくるはず！**



広報講座の流れ

第1回 9月6日19時-21時
祭りの広報とは？
講師：西嶋一泰

自分たちでつくる祭り、せっかくなら広報も自分たちの手で始めてみましょう。祭り紹介ワークショップで他の地域の祭りを取材し交流も行います。

ワーク①
互いの祭り紹介記事

第2回 9月20日19時-21時
伝える情報のデザイン
講師：JAZYブランディング

相手に情報を伝える時に重要になるデザイン。観光客向け、地元向け、担い手募集など事例ごとに情報の整理とデザインを学び、パンフづくりもスタート。

ワーク②
祭り紹介記事づくり

第3回 10月4日19時-21時
担い手による魅力発信
講師：大石始

担い手自身が魅力に感じる祭りのポイントをいかに表現し伝えられるのか、対話と実践で深めていきます。成果となるパンフづくりも終盤です。

ワーク③
祭りパンフ仕上げ

11月
完成

パンフ
1000部
贈呈

Web
掲載

2020年の海の祭りの開拓・取材

開拓・取材班



- ・受講者6名、全3回で開催
 - ・毎回、参加者同士で話し合い、つながりをつくる
- 受講者の声

「とても面白いです。私の仕事にも役に立つ内容です」

「自分たちの祭りをどう伝えるか、受け取る側は何を知りたいのか、広報のあり方を深く知ることができた」

「講師と生徒だけでなく生徒間でもコミュニケーションとれるのは横のつながりもできるのでとても良いと思いました」





- ・テスト開催は実施できたが、本開催は参加者不足で開催できず
→オンライン開催というハードルの高さ、担い手との関係づくりが必要
- ・祭りのオンラインスクールという新たな試みは一度中断し、方向転換
→既に関係のある「海の祭り」がコロナ禍でどうなったかを記事化
- ・祭りのない町がどうなったか、祭りの日何が起きたかを取材
→祭りがないことで、地域にとって祭りとは何かを知る機会となる

【コロナ禍の海の祭】俺たちに必要なのは山笠なんだ

郷ノ浦祇園山笠（長崎県壱岐市） 開催日：毎年7月第4土曜日・日曜日



【コロナ禍の海の祭】 祭りがあるはずだった日、 港町に響く太鼓の音

とも旗祭り (石川県能登町) 開催日：毎年5月2日、3日



【コロナ禍の海の祭】人口減少により静かな危機 を迎えた島の祭りの新たな挑戦

宇久島竜神祭/ひよひよ祭り（長崎県佐世保市） 開催日：毎年旧暦の6月17日、18日



【コロナ禍の海の祭】祭りのない喪失感と、祭りへの想いを新たな人へ伝える意味

釜石まつり（岩手県釜石市） 開催日：毎年10月第3金・土・日曜日



【コロナ禍の海の祭】祭りの熱を絶やさないため にできること

三谷祭（愛知県蒲郡市） 開催日：毎年10月第3第4土日（潮位による）



【コロナ禍の海の祭】祭り中止のなか「祭り空間」を創り出す「見立て」の工夫

佐島の秋祭り（愛媛県上島町） 開催日：毎年10月第2土日月



【コロナ禍の海の祭】 熱い海の祭りのアツい想いを繋ぐ

熱海こがし祭り（静岡県熱海市） 開催日：毎年7月15日、16日





まとめにかえて

- ・ **地域にとって「海」とは何か、人々が知る・触れる機会になる**
→ 漁師など海の仕事を
する人以外が海に触れる貴重な機会となる
- ・ 祭りは毎年あるが、中止により「**その年が主役**」の人の晴れの場を奪う
→ 祭りのメンバーシップや求心力が低下してしまう恐れがある
- ・ 地域の祭りへの危機感を持った
思いある方と繋がれば、様々なことができる
→ 祭りの取材を通じて、祭りのことを深く知る、担い手の方と関係ができる！

今後、祭りを丁寧に取材する人を増やしていきたい

取材することで初めて知った＜海の祭り＞の魅力をもっと発信できるはず！